

序

「環境」は、今を生きる私たち、次世代の子どもたち、そして地球に生きるすべての生物との共有財産です。ところが、長きにわたり人間社会を優先して破壊や汚染をくり返したつげが、今や大きなしっぺ返しとなって人類に影響を与えはじめ、環境問題として明るみに出てきてようやく危機感を抱くようになりました。

本書は、長年蓄積されてきた膨大な情報から、地球全体、局所的地域、生活環境などに関する正確な科学データを取りまとめ、「環境」を一冊に凝縮したものです。そして、広く社会に提供しあらたな視点での私たちの知的財産となり、広く活用されるものと考えます。本書では地球温暖化、異常気象、酸性雨、オゾンホール、生物多様性、IPCC 報告や福島における原発問題に端を発したエネルギー問題、熱中症や感染症など、関心の高い話題を数多く取り上げています。そのほかにも、地球外部（宇宙）を要因とする環境変動や、大気や水の汚染、ごみ、廃棄物といった産業や生活に関係する環境データも掲載しています。

前回改訂時の特徴であった、ヒトの健康と環境の関係、日本の火山噴火やバイオームに関する項目を引き続き継続しながら、今回は「放射線と健康影響」の節を新設し、さらに読める要素の充実を目指して今までのトピックスの他に新規のものを追加しています。それらは「2014年夏から2016年春まで続いたエルニーニョ現象」「海面水位の上昇に及ぼす地球温暖化の影響」「活火山・死火山・休火山について」「ジカウイルス感染症」「地球温暖化対処に向けた国際的取り組みの経緯とパリ協定について」など環境に関する重要な話題です。

『理科年表』同様、重要な文献としてあらゆる「環境」を総合的にまとめたこの『環境年表』が多くの教育現場での教材となり、また、企業や官公庁などにおいてもこれらのデータが有効に活用されて、一人でも多くの方が環境問題について考えるための大切な基礎データ集となることを願っています。

今日ほど人類にとって環境問題が取り上げられた時代はありません。それほどに人類にとって、環境問題を考えることなしには、将来の持続的な発展を望めないという限界にきているともいえます。『環境年表』は確かなエビデンスをもとにまとめており、最も重要な資料であるといえます。

『環境年表』に記載された個々の科学データやその年次変化の奥には、人類の営みがもたらす産業経済活動、国際関係、南北問題、今後の経済的戦略など現代社会にかかわる重要なテーマが埋め込まれています。この意味で本書はわが国の将来を語るための貴重なデータブックとなるでしょう。ぜひ、多くの方々の手許においていただき、参考にしていただければと思っています。

2017年1月

編集代表 東京大学名誉教授 浅島 誠
国立天文台 台長 林 正彦